

## 学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	田中 駿
2. 審査委員	主 査：石倉健二 副主査：別府 哲 委 員：宇野宏之 委 員：井澤信三 委 員：小倉正義
3. 論文題目	幼児期の身体模倣の発達と社会性との関連
4. 審査結果の要旨	<p>学校教育実践学専攻学校教育臨床連合講座 田中駿から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。</p> <p>論文審査日時：令和4年2月23日（水） 10時00分～11時30分 場 所：オンライン（Zoom）</p> <p>1. 学位論文の構成と概要</p> <p>第1章 模倣研究の概観 模倣の発達と役割、模倣と社会性、模倣と自閉症、身体模倣と幼児教育について先行研究をもとに研究を概観し、本論文における3つの研究目的が示された。</p> <p>第2章 幼児期から児童期初期の身体模倣の発達と男女差 3歳から6歳の幼児415人に、13個の身体模倣課題を実施した結果をもとにして、身体模倣課題の作成を行った。その結果、「正中線交差なし」「正中線交差あり」「手先」の模倣課題の発達が示された。</p> <p>第3章 身体模倣と社会的スキルとの関連 4歳児と5歳児の49名を対象に、身体模倣課題と社会的スキルの関連について調査を行った。その結果、特に「正中線交差あり」の模倣課題は、社会的スキルとの有意な相関関係が認められた。</p> <p>第4章 発達にディスレパシーのある幼児の身体模倣のコホート調査 発達にディスレパシーのある幼児6名と定型発達児32名を対象に、年少・年中・年長の計3回、身体模倣課題を実施した。その結果、ディスレパシー児は定型発達児よりも身体模倣得点は低いものの1年程度の遅れで獲得していること、幼稚園等での生活の困難さの一因である可能性が指摘された。</p> <p>第5章 動作模倣課題の発達と適用年齢 身体模倣課題の項目を組み合わせ、動作模倣課題Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの課題を作成し、3歳から6歳の幼児192を対象に調査を行った。その結果、これらの課題は3歳から6歳にかけて発達するものであることが確認された。</p> <p>第6章 総合考察 第2章から5章のまとめとして、身体模倣課題が社会性の発達に関する簡易なスクリーニング検査として活用が可能であることが示された。</p>

## 2. 審査経過

本論文は、単なる模倣の発達ではなく身体模倣と社会性の関係について、多くの調査を行った結果を丁寧に分析することで検討をしていることから貴重な研究であり、独創性にも優れている。この知見は発達検査に資するだけでなく、療育実践や幼児教育にも貢献するものであり、社会的にも大きな貢献が期待できるものである。

## 3. 審査結果

以上により、本審査委員会は田中駿の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。